

みんなげんき

題字:小川 空さん

第73号

広報誌 みんなげんき

社会福祉法人 至泉会 理事長 清水 行夫
福祉型障害児入所施設 精陽学園 園長 市川 進治
〒254-0005 神奈川県平塚市城所922
TEL:0463-54-5312 FAX:0463-54-8233
メールアドレス:seiyou@shisen.or.jp
法人ホームページ:https://shisen.or.jp/
精陽学園:https://shisen.or.jp/seiyou-gakuen/



発行日:令和7年3月吉日

こども達が成長し、卒園するまでの期間は、それぞれの経緯にもよりますが、一番長い期間で考えると、二歳から十八歳までの十六年ほどになります。長いようであつという間でもあり、とても大切な時間の連続であつたと感じます。楽しかったこと、辛かったこと、笑ったこと、泣いたこと等々、様々な思い出が詰まっております。私たちの療育や支援のゴールはどこにあるのかと考えることがあります。こども達が在園しているときには、決して求められるものではないでしょう。卒園して、社会に出てからの人生において、自分らしい輝きを持てるかどうか、その道筋に何らかの影響を持たせることができたかどうか、それでも明確なゴールがあるわけではな

再会！人とのつながり

園長 市川 進治



箱根 大雄山より

昨年は、五年ぶりに秋まつりを再開することができました。年齢はもう四十前後の世代ですが、ライングループを作り、日々情報交換を行っているメンバーがいます。秋まつりの再開を伝えると、みんなとても喜んでいただき、埼玉県、東京都、川崎市、横浜市等、遠くから駆け付けてくれました。精陽学園でつながった強い絆の輪が今でも続いています。直近の退園者も爬虫類が好きで自分でトカゲを飼いたい、ひとりりで自由に外出



熱海 伊豆山より

したい、アイドルになりたい等、それぞれの夢を一つひとつ実現しながら、今の生活の話をたくさん聞くことができました。ひとり一人の元気な様子を知ることが出来て、ホッと心が温まる時間を持つことができました。このように考えると、人とのつながりはエンドレスだと感じています。つながりを持ち続けることができ、里帰りできる場所があること、これからも大切にしていきたいと思えます。

精陽学園で行っている身体拘束に係る取り組みについて



主任 宮 卓史

「児童が安全に過ごしてもらうために」

園での身体拘束廃止に向けての取り組みについて、少しお話しさせて頂きます。身体拘束ってなんだろう？ベッド柵を使うこと。自分では脱ぎにくい衣服を着ること。自由に動ける場所を制限してしまふこと。などなど。この状況に対して、園では権利擁護委員会を中心に、「どうしたら身体拘束をしなくても過さずことが出来るだろうか」と、常に対策を考え、検討しています。

例えば、風邪で個室に移動した児童が寂しさからオムツを弄ってしまったために脱ぎにくい服を着用していることがありました。しかし、こまめに様子を見て声を掛けたり、部屋にテレビを用意したりして、寂しさを感じないような関わりを続けること、また、その子自身の成長により、今では上記のような対応をしなくても過さざるようになってきました。

現状の身体拘束に対して、「そのままのケアで良い」ではなく、廃止に向けた検討や取り組みを続けていくことが大切になります。続けていくためには常に児童の生活状況や動きを考え、職員の子どもの見る視点やケアの質の向上、生活環境を考えることが必要になります。固定観念にとらわれず、身体拘束の廃止を考える過程で気づいた課題を受け止め、より質の高いケアの実現に向けて日々取り組んでいます。

INTERVIEW

日々部活を頑張っている児童へインタビュー

- ① その部活を選んだ理由
- ② 部活の楽しいところ
- ③ 部活の大変なところ
- ④ 今後の目標
- ⑤ その他



部活をしている
Interview
児童へインタビュー



小川 空さん 中学1年生 ダンス部

- ① 憧れのアーティストがいるから
- ② 雰囲気明るくて笑顔が絶えず、先輩が優しいところ
- ③ 振りを覚えるところ
- ④ 3年生に教えてもらったように新1年生にも笑顔で教えられるようになりたい。
- ⑤ 小3でダンスを始めて下手だったけど、ダンス部に入ってダンスのキレとか滑らかに踊れるようになって、成長したと実感している。



ウッドワースセナン右順くん 中学1年生 サッカー部

- ① 楽しいから・サッカーが好きだから
- ② 試合が楽しい
- ③ たくさん走るから練習が大変
- ④ 強くなる！



西岡 星旺くん 中学2年生 バスケットボール部

- ① お友達に誘われたのがきっかけ
- ② 練習により、上達していく自分を感じられるところ。
- ③ ずっと走り続けたいといけなところ
- ④ 県大会出場！



秋まつりへ来ていただいた退園者へのインタビュー

- ①今、どんな生活をしている？
②精陽学園の生活していた時の一番の思い出 ③これからの夢

増井(稲垣) 祐実さん 30歳

- ①夫婦と3歳の男の子の3人家族。相模原市に住んでいる。子育てをしながら事務のお仕事をしている。
②小さい子達と遊んだこと。
③できたら2人目が欲しいかな。



《秋まつりの感想》

発表会はすばらしくて楽しかった。
知らない子が多かった。
蒼空ちゃんや天音ちゃんは大きくなっていた。

小澤勇輝さん 24歳



- ①就職活動中!もうすぐ面接実施予定
②びわ青少年の家でのお泊りキャンプ
③You Tuber
車椅子マラソンやバスケットなどやりたい

尾島孝輔さん 37歳



- ①グループホームで生活し、
日中は作業所でお仕事
②大きな声では言えない・・・
③ん……。ない。

上原雅人さん 38歳



- ①グループホームで生活しています。
②思い出が多すぎて選べない。
③経済的にも、健康面においても、
今の生活を長く続けられるようにしたい。

伊良部大海さん 20歳



- ①グループホームで生き物を飼いながら生活している。
②調理実習で美味しいご飯を作ったこと。
③色々な種類のトカゲをたくさん飼いたい。

廣瀬友悟さん 19歳



- ①平日はお仕事。
週末は好きな歌を歌っているよ。
②単独コンサート。
③柏木由紀みたいなアイドル
になりたい。

2024年
10月13日

秋まつり

秋まつりが5年ぶりに開催!以前より小規模開催となりましたが、多くの退園者や退職職員が来園され、笑顔があふれました。

